

日本教育学会第73回大会のご案内（第1報）

日本教育学会第73回大会は、2014年8月22、23、24日の3日間に亘って九州大学貝塚文系キャンパス（箱崎）において開催する運びとなりました。前回の九州地区での大会は2002年の福岡教育大学でしたので、九州大学での開催は1990年以来、実に四半世紀ぶりの大会となります。移転前でキャンパスも老朽化しており、不安は尽きませんが、前開催校・一橋大学による大会運営のノウハウを参考にさせていただきながら、学内外関係者一同、精一杯努める所存でおりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

第73回大会は、研究発表の中核となる「自由研究発表」、「ラウンドテーブル」、「シンポジウム」、「特別課題研究」を中心にプログラムを組み、その間に、総会、懇親会、学会理事会の開催を予定しております。「自由研究発表」は、第68回大会以来採用されている「一般研究発表」と「テーマ型研究発表」に区分して、同時並行で開催したいと考えています。また、前大会と同様に「ラウンドテーブル」を22日（金）の夕方に開催する予定です。「特別課題研究」は24日（日）の午後に設定しました。

大会校である九州大学が主催する「シンポジウム」は、23日（土）の午後と24日（日）の午後に設定し、一般公開して地域の方々にも参加していただく予定です。

さて、今回の大会では、「iを探そう！」をキャッチフレーズに、九州 island が抱えるリソースを掘り起こし、かつ課題を見つめ直す契機とするべく、九州教育学会を核とした九州ネットワークの後援をうけ体制を整えつつあります。そして、私たち九州大学の教育学部門、専攻が人間環境学研究院・学府という文理融合型学際大学院に所属しているという特色と強みを活かし、福祉や、都市やコミュニティ等の問題を含むまちづくり論など、周縁でありながら現在それなくしては教育を語ることのできない領域の研究をもまきこみ（involvement、integration）、新しい教育学 image を探っていく、そんな大会にしていきたいと考えています。会員の皆さまにも、もっと多くの“i”を見つけていただきたいと考えております。

そんななかで、シンポジウムのテーマ探しにおいても“i”を見つけるべく奮闘中です。人間環境学という広い領域のなかで、教育学の identity を再考するとき立ち現われてくるのが、九州 island のグローバル性です。他地域からの九州への移住者が否応なく肌で感じる「ひとつではない日本」という「地政図」には、歴史的、社会的、そして政治的な幾層にもわたる人々の営みが刻まれています。それは教育を考えるときにも看過しえないことです。

日本の、韓国、中国等のアジア諸国、そして西欧との関係は、まさにこの九州を玄関口として取り結ばれてきたという歴史があります。現在ますます深刻化する日中韓の関係の改善のために、教育学研究は、どのような知見を提出できるのでしょうか。今日のナショナリスト・ポピュリズムの昂揚は、各国の国内的な社会的、経済的な問題構造のなかで起きている現象といえます。教育学において、この問題は、歴史教育の領域で多く語られてきました。しかし、それだけではなく、道徳教育や国語教育などの領域も、愛国心や国家観の形成に大きな位置を占めていることはいうまでもありません。さらに、中国研究者によれば、ナショナリズムの感情は、国内の格差、壮絶な貧困問題と切っても切れない関係にあります。その関係に、教育システムの制度的、構造的な問題が密接に連動しています。このような問題について、国家間（cross-national）の議論を深めることは、今まさに必要なのではないかと。「脱欧（米）入亜」をキーワードに、この問題を掘り下げていく、これがひとつのテーマです。

「ひとつではない日本」は、特に“3.11”以降において、突きつけられている課題であると言っても過言ではありません。一分の揺れも感じないままに、その後日本中が突入した第二の戦後ともされる大震

災後という時代に、九州に生きている私たち。この〈隔たり〉は、しかし、東日本と西日本の分断だけではなく、被災地内部における隔絶、疎隔をも表わす言葉でもあります。ある宮城県出身の研究者は、震災によって「歴史的な断絶と権力への従属」を露わにされた〈東北〉と、絶望と過酷さのなかにあってもなお対峙することを次のように表現しています。「東京の中の〈東北〉、東北の中のさらなる〈東北〉。世界に遍在する〈東北〉。〈東北〉は膨張していく。それならいっそ、東北から、この〈辺境〉からはじめればいい。右肩上がりの宴のあとで、人間の基本的な暮らしのなかに立ち返る時なのだろう」(山内明美「〈飢餓〉をめぐる東京／東北」赤坂憲雄、小熊英二編著『「辺境」からはじまる ― 東京／東北論』明石書店、2012年、297頁)。戦後日本の“成長”が隠蔽してきた問題の本質を、今回の震災が一気に剥き出しにしたとするならば、九州が抱えてきた水俣の問題、旧産炭地の問題、原子力ムラの問題、そして過疎(限界集落)や貧困の問題との“対話”に、今こそ取り組むべきではないか。それは、とりもなおさず、価値としての“近代”に私たちがどう対峙しうるのであるのか、ということにつながります。これがふたつめのテーマです。次世代にどのように文化を継承し、社会を形成していくかという問いにこたえるべく、教育学は、この対話から何を見出すことができるでしょうか。

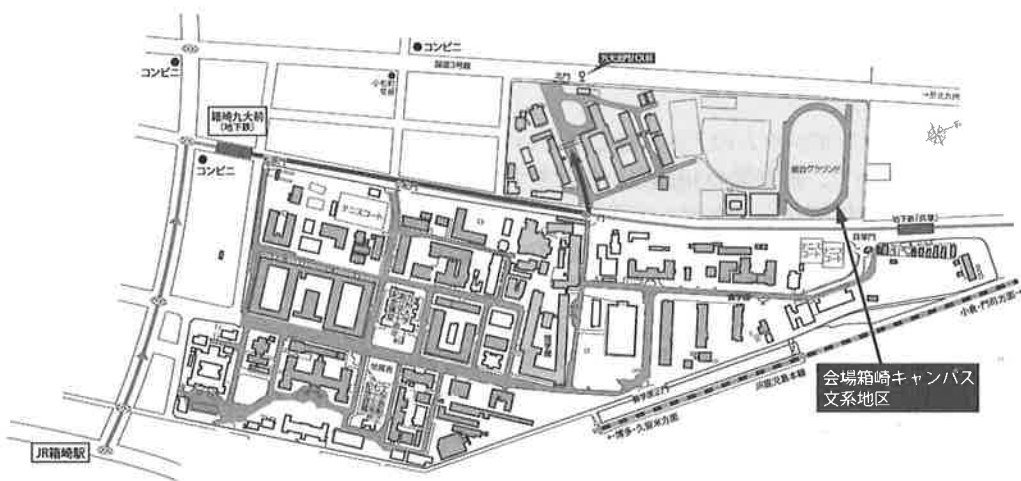
以下、現段階に於ける大会準備状況をお知らせします。より詳細な大会計画と内容につきましては、次号(第81巻第1号、2014年3月末発行予定)においてご案内させていただきます。

1. 開催日時

2014年8月22日(金)、23日(土)、24日(日)

2. 開催会場

九州大学(貝塚文系地区キャンパス)



交通アクセス 市営地下鉄貝塚線 箱崎九大前下車 徒歩10分

JR 鹿児島本線箱崎駅下車 徒歩20分

詳細は九州大学 HP アクセスマップをご覧ください

<http://www.kyushu-u.ac.jp/access/index.php>

3. 大会日程

22日(金)	13:30		16:30 17:00		19:00	
		理 事 会			ラウンドテーブル	
23日(土)	9:30	12:30	13:30	14:45	15:00	18:00 18:30 20:30
	一般研究発表/テーマ型研究発表		昼食	総 会		シンポジウム I
24日(日)	9:30	12:30	13:30	16:30		
	一般研究発表/テーマ型研究発表		昼食	シンポジウム II/特別課題研究		

一般/テーマ型研究発表の時間配分（発表後に、総括討論）

個人研究 発表25分＋質疑 5分

共同研究 発表50分＋質疑10分

4. 組織体制

九州地区大会準備委員会 委員長 新谷 恭明

副委員長 元兼 正浩

大会実行委員会 委員長 八尾坂 修

副委員長 野々村淑子

実行小委員会

【総務】野々村淑子 【渉外】元兼正浩 【会計】竹熊尚夫

【プログラム・分科会等】田上哲、荒牧草平 【懇親会等】岡幸江

【広報】田北雅裕 【シンポジウム】藤田雄飛、Edward Vickers、田上哲、岡幸江

5. 連絡先

〒812-8581

福岡市東区箱崎 6-19-1 九州大学大学院

人間環境学研究院 教育学部門

日本教育学会第73回大会準備委員会（実行小委員会）